



中之島4丁目再開発基本構想案

大阪大学中之島アゴラ構想

2016年11月17日



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

O S A K A

U N I V E R S I T Y

N A K A N O S H I M A

A G O R A

- この資料は、中之島4丁目再開発における大阪大学の考えをまとめた基本構想案です。
- 中之島4丁目文化・芸術・学術・技術の交流点となり、世界に向けて社会的価値を創造するアゴラ(広場)となることをめざします。

大阪大学

目次

1. 中之島4丁目と大阪大学

2. コンセプト「中之島アゴラ構想」

3. 中之島4丁目再開発の意義

- (1) 世界に向けた社会的価値の創造
- (2) 中之島エリアのブランド化とシビックプライドの創出
- (3) 後続するまちづくり計画への波及

4. 事業計画

(1) 事業概要

アート拠点: SitesOnArts / Nakanoshima 構想

社会学共創拠点: 社会学共創アゴラ・イノベーション構想

産学共創によるイノベーション人材育成

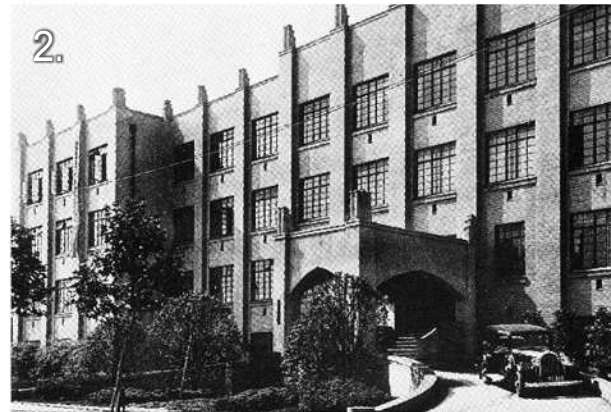
リサーチクラウド・アライアンス(RCA: 大阪大学研究所群の資源・サービス一元化拠点)

(2) 事業推進の考え方

5. 土地利用計画

施設区分、用途

1. 中之島4丁目と大阪大学



1. 中之島4丁目の医学部
2. 中之島4丁目の理学部
3. 中之島4丁目の理学部屋上にて
後列左端が湯川秀樹博士
4. 医学部の授業風景
5. 現在の大阪大学中之島センター

大阪市北区中之島4丁目エリアは大阪帝国大学発祥の地であり、
大阪大学医学部、歯学部、および理学部があったゆかりの場所です。

大阪大学創立70周年記念事業の一環として、2004年4月に大阪大学中之島センターを開設し、
今では大阪大学中之島キャンパスとして、本学の社会学連携活動の拠点となっています。

中之島の地で事業を行う企業や諸団体と本学が共に手を携え、
大阪から学術や科学・技術はもとより、大阪の文化・芸術の息吹をも積極的に発信し、

大阪市中心部のにぎわいの創出にも貢献します。



堂島川をはさんで、医学部附属病院(左)、医学部(右)、中央は田蓑橋

1931年に、大阪府立医科大学を母体として、医学部と理学部の2学部からなる大阪帝国大学を創設しました。

当時、東京をしのぐ大都市であった大阪に「総合大学を」という声が民間からあがりました。当時の大阪府立医科大学長の楠本長三郎(第二代総長)や大阪府知事柴田善三郎をはじめ、関西財界や府民の熱意ある活動の末、悲願の「大阪帝国大学」が誕生しました。

しかし、1993年の医学部・同附属病院の吹田キャンパス移転を最後に、中之島から大阪大学の姿が消えました。

現在は、その跡地に大阪大学中之島センターが建っています。

【中之島の沿革】

- 1931 中之島に大阪帝国大学を創設
- 1949 新制大阪大学発足
- 1951.3 医学部歯学科が独立して歯学部となる
(同附属病院は1953年発足)
- 1966.3 理学部が豊中キャンパスに移転
- 1980.8 本部が吹田キャンパスに移転
- 1983.8 歯学部・同附属病院が吹田キャンパスに移転
- 1993.8 医学部・同附属病院が吹田キャンパスに移転
- 2004.4 大阪大学中之島センターを開設

移転年月は、移転完了時期

文化

芸術

4つの知の交差点 中之島アゴラ

学術

技術

中之島4丁目エリアの再開発では、
豊中・吹田・箕面の各キャンパスで進化してきた知を、
大阪大学の発祥の地たる中之島で交差させ、
文化・芸術・学術・技術の発信拠点となり、
アートや社会学共創や産学共創の拠点となる「中之島アゴラ」として深化させ
ます。

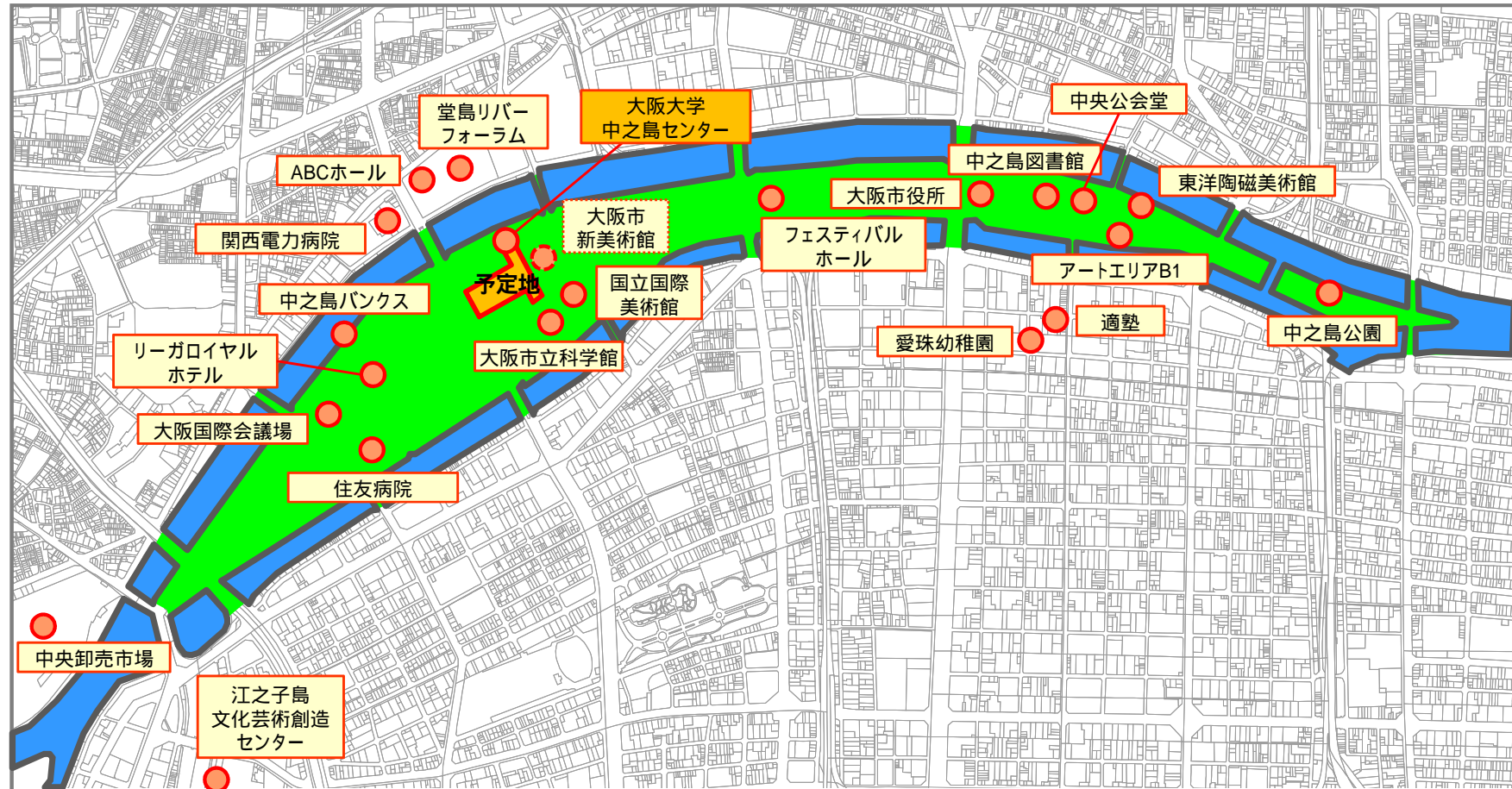
3. 中之島4丁目再開発の意義

(1) 世界に向けた社会的価値の創造



行政、地域住民、多様な産業界・事業者、賛同する教育・研究機関と協働して、
国際的なイノベーション人材の育成と新たな産業の創出を行い、
世界の知的リソースやビジネスリソースが集まる**オープンイノベーションおよびオープンエデュケーションのアカデミックハブ**として、
地域の特性を活かした新たな社会的価値の創造や社会的ソリューション創造にチャレンジし、
関西発で、日本全体さらには世界に向けた発信をめざします。

(2) 中之島エリアのブランド化とシビックプライドの創出



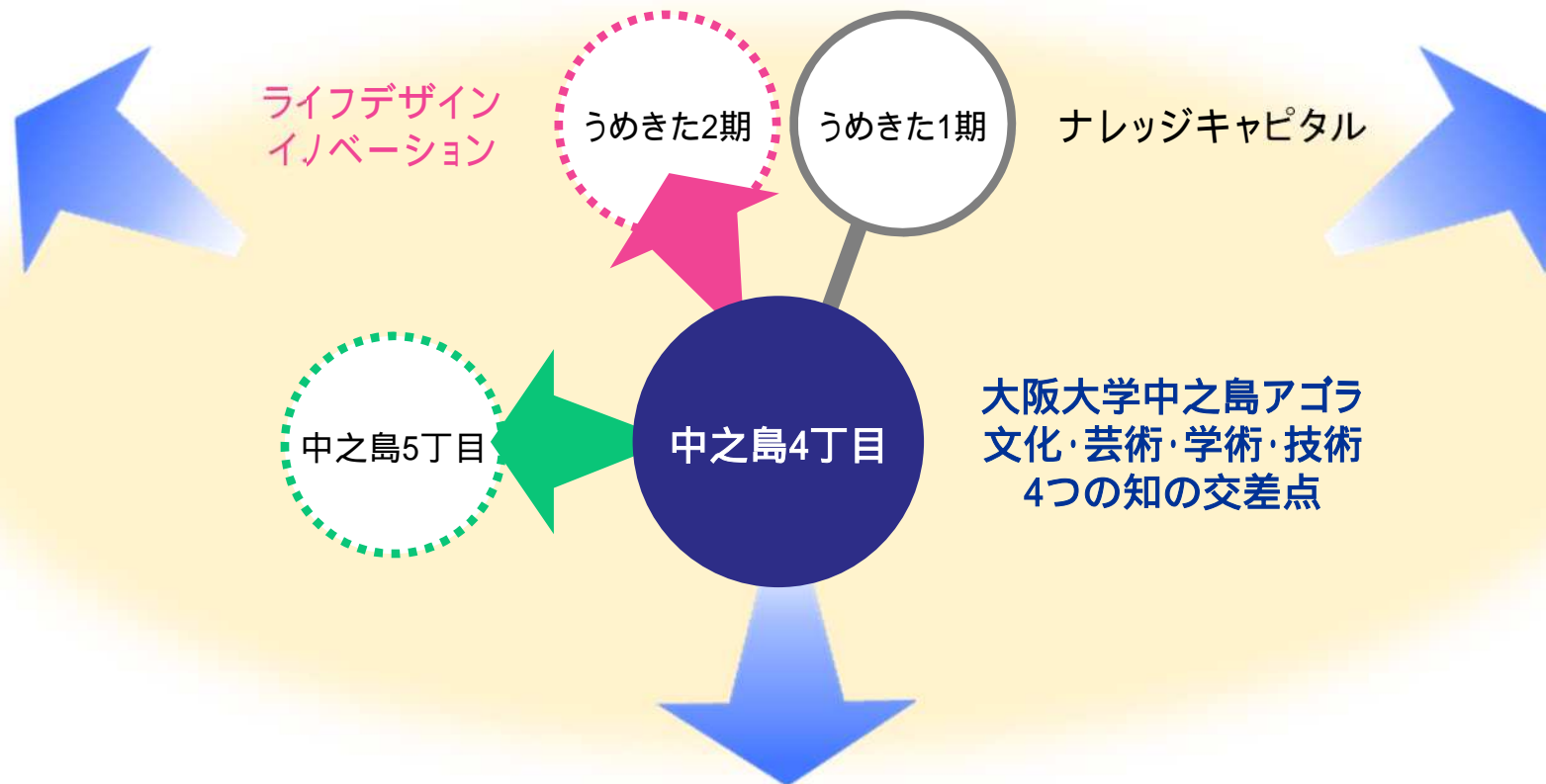
古くから大阪の経済・文化の中心地であった中之島は、集客施設、歴史的建造物、医療機関が点在し、文化・芸術・学術・技術の4つの知が交差するゾーンとして、高いポテンシャルを有しています。

中之島エリアのブランド化を図ることで、人・モノ・投資などを呼び込み、まちに大きな経済波及効果をもたらします。

中之島エリア全体が、市民が誇りに思えるような場所になることを目指します。

3. 中之島4丁目再開発の意義

(3) 後続するまちづくり計画への波及



関西広域のまちづくり、産業創出への波及

中之島4丁目再開発は、うめきた2期や中之島5丁目など、後続するまちづくり活性化のトリガー(起爆剤)になります。さらには、中之島エリアとうめきたエリアの連携強化により、関西広域でのソーシャルイノベーションのハブに成長し、関西圏全体でのまちづくりや産業創出に寄与することをめざします。